

転居された方は事務局 (svcf-admin@svcf.jp) まで転居先をお知らせください

10月、11月の院内集会を案内します

第86回院内集会「福島第一原子力発電所廃炉事業の現況」

日時: 10月17日(木)11:00~13:00

会場: 参議院議員会館1階102号室

(地下鉄有楽町線永田町駅国会方面改札徒歩3分。10:30~11:00の間、ロビーでSVCFのプラカードを持った担当者が入館証をお配りします)

講師: 資源エネルギー庁:

原子力発電所事故収束対応室 佐藤 徹 室

長補佐

原子力損害賠償・廃炉等支援機構:

辻本 崇紀 執行役員、三澤 尊久 執行役員

東京電力: 今井 賢樹 リスクコミュニケーター、

岩崎 悠 企画室 国会担当

第87回院内集会「放射能汚染被害をどのように克服し、地域の創造をめざすか」

日時: 11月21日(木)11:00~13:00

会場: 参議院議員会館地下1階101号室。

講師: 石田 みゆき 地域創造研究所代表(福島市)

第85回院内集会「ウォッチャーから見たこの1年のフクイチ」報告

9月26日、福島第一原発の事故収束作業をウォッチするサイト「[福島第一原発 Watcher](#)」のライターでもある中島賢一郎行動隊理事を講師に、参議院議員会館102会議室で表記の集会が開かれました。

集会には、初鹿明博衆議院議員、塩村あやか参議院議員をはじめ20名の参加者がありました。

「[福島第一原発 Watcher](#)」サイトで、廃炉に向けて困難な作業が続いている福島第一原子力発電所の原子炉の状態・使用済み燃料プール対策・燃料デブリの取り出し準備について毎月レポートを更新している講師から、三分野の最近の状況とそこから見えてきていること、および今話題の「処理水」の基礎知識について、会場との質疑を交えつつ報告がありました。

1~3号機の原子炉の状態

メルトダウンを起こした福島第一原子力発電所1~3号機の原子炉の現状については、注水冷却等が

続けられており、格納容器内部へのアクセスが数回の映像・線量調査しか行われていないここまでは、測定された格納容器底部の温度、原子炉建屋から放出された放射性物質の評価量、臨界のサインであるキセノン135の数値等からも、冷温停止状態を保ち安定していると思われるとのことでした。

廃炉準備作業の現状と見通しについて

使用済み核燃料の取り出しに向けた作業としては、原子炉建屋上部が壊れておらずオペレーティングフロアの線量が高い2号機においては、昨年9月オペレーティングフロアに遠隔操縦のロボットを入

れ整備をした際、放射性ダスト濃度が上がり(10月10日に散水で低下)、2号機周辺のガレキを片付ける環境を整備するために撤去する計画もあった原子炉建屋排気設備の撤去が棚上げになったこと。今年5月には使用済み核燃料の取り出しに向けてこれまでの原子炉建屋上部を解体撤去する計画を見直す動きが明らかになったことなどが報告されました。

2011年の水素爆発前により鉄骨メタルサイディング製の原子炉建屋上部が崩落した1号機については、使用済み核燃料の取り出しに向けて、鉄骨の切断・ガレキの除去・使用済み燃料プールの保護等が進められています。しかし、同じく水素爆発によって鉄筋コンクリート製の原子炉建屋上部が吹き飛んだ3号機に比べて作業が困難なようです。また、水素爆発によってずれたウェルプラグ(オペレーティングフロア上にある600トン超の原子炉の覆い)の線量が高く、この処理が大きな課題になるだろうとのことでした。

使用済み燃料プールからの燃料の取り出しが始まった3号機においては、それまでの経過の中で、取り出した燃料を地上に下ろすクレーンが、米国のメーカー・元請けの東芝・東京電力との間で電圧設定についての確認がなされておらずブレーキユニットが焦げ付いてしまうなど、のちの1・2号機排気筒解体作業時に、クレーンを提供する東京電力と作業を実施する(株)エイブルとの間で使用するクレーンの仕様について確認されておらず、解体装置を排気筒の上まで持ち上げられなかったというトラブルと併せ考えると、東京電力と協力企業との間の連携・マネジメントのあり方に深刻な問題があるのではないかという指摘がありました。

そのようなトラブルを経ながらも、3号機においては7月21日までに燃料28体(全て比較的安全な新燃料)が取り出され共用プールに収められました。また、9月1日には1・2号機排気筒最上部を高さ2.3メートルのブロックとして切りだし地上に下ろすことができました。ともによかったということでした。

核燃料デブリの取り出し準備関連では、廃炉等支援機構は、貫通部が高線量でアクセスが難しい1号機、格納容器内の水位が6.3メートルある3号機において、一昨年からの3回の内部調査により比較的格納容器底部の状況が分かってきた2号機で核燃料デブリの小規模な取り出しから着手することを明らかにしたそうです。

格納容器内へのアクセスが困難な1号機においては、所員用エアロック室の二重扉に高圧水で穴を開けX-2ペネとし、ここを経路として詳細な内部調査が行われようとしています。しかし6月4日、内側の扉に直径約0.21mの穴を開けるべく約5分間作業したところ仮設ダストモニタの値が上昇し、東京電力が設定した値(1.7×10^{-2} Bq/cm³)に達したため、作業を中断し、原因の究明と対策の立案が試みられているということです。



原子炉建屋内の作業の多くに共通した課題は作業時に放射性ダスト濃度が上昇していることです。もちろん敷地境界のダストモニタ測定値に有意な変動があるほどの上昇ではありませんが、1号機で約10 m³/h強ある格納容器から原子炉建屋への漏洩、2号機で最大2800 m³/hあると評価された原子炉建屋から環境への漏洩を考えると、原子炉建屋内部での放射性ダスト濃度を上昇させる可能性のある能動的な作業には慎重にならざるを得ないのではないかという見方が示されました。

また、水素爆発予防のための窒素封入により大気圧より高く維持されている格納容器内の気圧を、作業中は大気圧と同等とすることが計画されているのも、放射性ダスト濃度の上昇を抑制するためだそうです。

今後の福島第一原子力発電所の廃炉の行方は、水(地下水・雨水＝自然条件)をどう処理するかから、空気(人為的な廃炉作業による放射性ダストの環境への追加的放出)をどうコントロールするかに左右される局面に入ったということだと思いますということでした。

現在、その取扱いが課題となっているイチエフの

処理水＝トリチウム水については、トリチウム水とは何か？その量は？発生の原因・対策・結果はどうなっているか？その性質と争点、イチエフ以外での処理の実績(国内外)などについて報告がありました。内容については福島原発行動隊ホームページに、当日の質疑も踏まえた資料が掲載されていますのでご覧ください。

<http://svcf.jp/archives/7213>

“帰りたい でも帰れない” いつまで続く原発事故被災/避難者の苦悩（寄稿）

埼玉県朝霞市 田谷英浩

わたくしが福島原発行動隊に加わったのは、原発事故から半年ほどで、再度の暴発が危ぶまれていたころでした。この10月で8年になります。この間、東電福島第一原子力発電所の廃炉事業が進み、避難地区の解除によって被災/避難者の帰還も少しずつ進んでいます。しかし、身近に接する事故被災/避難者たちは、いまなお「帰りたくても帰れない」苦悩の毎日を送っておられます。

避難者で思い起こすのは、5年前、『漂流するフクシマ』と題して地元朝霞で開催した映画・朗読・写真展です。私はこの企画の実行委員会に加わって展示写真集めなどの準備に当たりました。

放射能の影響を懸念して埼玉県に自主避難してこられた方が、当時約1,200人、300～400世帯ほど。朝霞市内にも100人くらい。

政府から避難指示を受けた強制避難の人とそれ以外の自主避難の人とでは抱える問題や悩みが、時間が経つにつれ微妙に異なっている。“戻れる家があるのに何故戻らない？”“避難者はいいわね、お金がもらえて。”—すべての避難者に東京電力から高額な賠償金が支払われているという誤解。そしてあろうことか、周囲のやっかみと冷たい視線。

自主避難者も強制避難者も、「国は事故の幕引きを

したがっている」と感じはじめています。特に自主避難者は、孤独や孤立、「原発離婚」という言葉さえあるほど家族は分断されている。そのうえに住宅の無償提供は2017年3月で打ち切ると発表された。国は復興の加速と帰還促進を目指すのだという。

一方強制避難者も、「除染は済んだ、もう帰れる」と言われても自宅の周囲はあの黒いトン袋(フレコンバッグ)。これに囲まれた中でまともな生活ができるわけがない。帰還者が一割にも満たずコミュニティも成立しない中で、放射線量が解除の目安を下回ったというだけでの帰還促進は無茶苦茶である。

国は東日本大震災の復興費用に32兆円という巨費を投じつつある。

これは被災者一人当たり約6,800万円に相当する。しかしその99%は土木建設工事費で、被災者の生活支援に直接支給されるのは1%にすぎない。ようやく「復興は防潮堤や高台造成地の建設だけではないのか」との声が上がり始めたが、もはや手遅れ。始まった公共工事は止められない。

乱暴だが、「一人ひとりに6,800万円を手渡してこれからの生活再建は自分で考えろ」としたらどうなっていたか。遊興や賭け事に費消される特殊な例外は別として、住民は集落ごとに集まって知恵を出し

合い、自治体レベルで自らが満足できる復興計画
を作り上げたのではなかろうか。

こんな問題意識を持って2014年3月12日、13
日の両日、映画『日本と原発 4年後』の上映と
『ふるさとは今』の写真展。そして地道に避難者の
現状をレポートするライター吉田千亜さん、いわき
市から小学校入学前のお嬢さんをつれて毛呂山
町に避難しているKWさんや双葉町から朝霞に避
難しているKMさんに来ていただき『ふれあいト
ーク』と題するパネルディスカッションを開催しました。

会場の市立図書館の視聴覚室は沈黙と涙とため
息、そして怒り。会期中の来場者は延べ1,000人
超。

.....
事故から8年、長引く避難生活、関連死の増加、
家族間の分断、状況はますます複雑化していま
す。
われわれにできることは限られていますが、今後も
広い意味での支援活動を続けたいと思っていま
す。

写真展等開催当時の朝日歌壇から2首

帰れねえ いまさら解除といわれても 口惜しいけ
れどもう帰れねえ 赤城昭子
帰りたい でも帰れない原発禍 帰らぬと決め涙溢
る 荻原大空

<行動隊 10、11月スケジュール>

下記の活動はどなたでも参加できます。

10月日程

<SVCF 通信 115号(本号)>

- ・発行日:10日(木)

<第86回院内集会>

- ・17日(木)11:00~13:00
- ・「福島第一原子力発電所の廃炉事業の現況」について東京電力/支援機構/エネルギー庁から報告を
受けます。

<連絡会議>

- ・4日、11日、18日、25日(各金曜日)
(右の地図の事務所でいきます)

<現地活動>

- ・5日 大熊町帰宅困難区域避難者宅草刈り
- ・6日 「ふくしま再生の会」稲刈り参加
- ・27~30日 かわうちワイン(株)ぶどう園支援活
動

11月日程

<第87回院内集会>

- ・21日(木)
- ・地域創造研究所代表(福島市)の石田みゆき
さんから、放射能汚染被害をどのように克服し、
地域の創造をめざすかというテーマでお話しいただきます。

